

安全運転の心構え(プロドライバーとしての心得)

公共交通事業であるバス事業は、お客様を安全且つ確実に輸送することが社会的使命であると共に、バスの引き起こす事故が社会に多大な影響を及ぼすことを十分認識する必要がある。また、運転者はプロとしての自覚と責任感を持って、お客様の安全を最優先することが使命である。

➤ 人命の尊さを知る！

- ・人の命の尊さを知り、豊かな人間愛を持つことが大切である。そうすればハンドルの切り方も、アクセルの踏み方もおのずからセーブされ、**全ての人に「思いやり」**のある運転ができるようになる。他の人を思う心が、安全運転のコツなのである。

➤ 交通ルールを守る！

- ・交通法令を遵守することが、安全運転の第一歩である。交通法規は人と車が安全に共存できるように定めたものであり、**交通法規を守ることは、運転手の重要な履行義務である。**

➤ 譲り合いの精神が大切！

- ・交通ルールは万能ではない。「思いやり」と「譲り合い」の気持ちが大切である。**心の余裕が運転の余裕となる。**

➤ プロとしての責任感を持つ！

- ・運転手は、**法規を守って、安全運転をする義務があり、自分は絶対に事故を起こさないという強い信念と、自覚と責任感をもたなければならない。**また、プロとして、他の運転手の手本となるべき、安全でマナーの良い運転を心がけることが必要である。

➤ 油断や過信をしない！

- ・「毎日通っているから」といった油断や、「運転がうまい」などの**過信は、安全運転の基本を失う。**プロであるからこそ、日々緊張感を持ち、初心を忘れない運転が必要である。

➤ 心身が良好な状態で運転すること！

- ・交通事故を起こす一つの理由として、ドライバーの心理状態が起因していることを忘れてはならない。「怒り」「焦り」「疲れ」「イライラ」「心配ごと」などの心理的状态が間接的事故要因となることが多い。**常に冷静、沈着、慎重な運転を心がけることが必要である。**

➤ だらう運転ではなく、かも知れない運転を心がける！

- ・「子供が飛び出してこないだろう」等の自分に都合の良い予測をすることをだらう運転という。日々の運転のなかで「だらう運転」をしてしまっているケースは意外に多い。特にベテランドライバーの場合は、長年の慣れや経験から、知らず知らずのうちにそのような運転になっている可能性もありえる。**絶えず自分の運転を振り返り、「だらう運転」をしていないかどうかをチェックして、常に危険を予測した「かもしれない運転」を実践するよう心がけよう。**

➤ 運転に集中する！

- ・道路状況はいつも変化している。そのために絶えず注意力を上げて集中して運転するところが重要です。一瞬も心に隙があってはならない。

また、絶対にスマートフォンを運転中に使用してはならない。

「ながら運転」は、もっとも危険な運転である。